

アコと人生…この人にインタビュー《第4回》「内山芳雄さん」

5月11日(日)、3月中旬並みの肌寒い一日でしたが、後期高齢者の仲間入りをし、『一人でいたんじゃつまらない、合奏は他の人と会えるのがとても良い』とおっしゃる「日野サークル」の内山芳雄さん(76歳)に、最寄の中央線日野駅までお越しいただきアコーディオンとの出会いについてお話を伺いました。

♪アコーディオンとの出会い

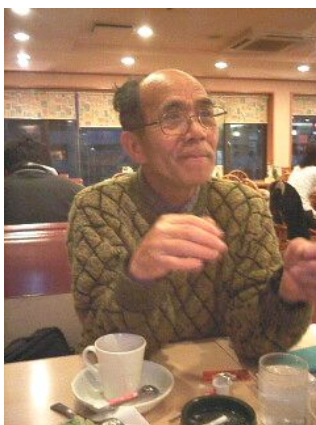
昭和25年だったと思う、大学1年だったから新宿駅西口、まだ闇市も並んでいるだっ広い所でどこどこでちっちゃなイスに座ってアコーディオンを弾いている人がいたんです。傷痍軍人といって、戦争で傷ついた人がアコーディオンを弾き、今で言えばカンパをお願いしていた。弾いていた異国の丘に聴き惚れた。それが出会いです。哀愁を帯びた、それがもう忘れられない。

♪音楽教師との出会い

その後4~5年経ち中学の数学教師になった。そのときの音楽教師とすごく仲がよく、当時、学校に泊まって夜間警備をする宿直があって、どうせ独り者でしょ、よく宿直をやった。その先生も良く泊まり、夜音楽室でピアノをバンバン弾くわけ。それを私がそばで聴いていて『ピアノって面白いんだなあ』と言ったら、先生が「じゃあやってみる？」ってバイエルを買ってきてくれて、5年位やったかな。一応バイエルは終わったんだけど才能がないからその後が全然うまくいかない、あきらめちゃった。

♪転任校でアコーディオンと出会う

昭和33~4年頃中野の中学へ移動したら音楽の先生じゃないのにアコーディオンを達者にやる先生がいた。学校でスキー旅行に行くとバスの中で、その人が伴奏しみんなで歌う『粋な黒堀見越しの松に…』など、当時の流行歌をチャカチャカやるわけだ、それでいいなあと私も勝手気ままにいたずらし始めた。忘れられないのは丹沢の麓に“みのべ”というキャンプ場



(質問に答える内山さん)

があって、キャンプのときアコーディオンが必要になる、それで私はよしやると校歌を弾いたりした。ピアノは多少やったからいいんだけど左手はでたらめだった。

♪アコーディオンは学校にあった

音楽室に独奏用のアコーディオンが1台あった(48ベースだったと思う)ベースはほとんど分からなかった、だけどいわゆる三和音だけは知っていた。なぜかという先ほど話した新任の中学で知り合った音楽教師から理論を学んだ。これがすごくやさしくて面白いの。そのころ、都の高校入試にアチーブメントテスト(9科目)があり、音楽も入っていたから生徒たちは必死で勉強したわけですよ。基本になる三和音とか、この調は何調ですかとか、作曲もさせられたが、でたらめでなきゃいいそんなテストだったからほとんどの生徒が100点近い点を取った、やさしいから。私も生徒に教えるためにそのとき勉強したらものすごく面白かったわけ。音の響きがどうつながっているか、すごいなあと思った。そんなことで遊んでいた。

♪指導者について習い始める

昭和49年、日野市社会教育課主催のアコーディオン講座が始まる。講師は川口先生でした。6ヶ月の講座で無料だった。それが5年続いた。私は二期生で、6ヶ月後これで終わりじゃつまらないと終わった人たちで「日野サークル」を作り現在まで続いている。無料だから最初は20人位来る。2ヶ月程すると5~6人になっちゃう。最後まで残るのは2~3人だけど6ヶ月ごとにそれを繰り返していくから少しずつ残っていく。一番多かったときで、20数名いた(7~8年前)。

♪息子の作曲で関東に出場したことも

我が家では娘がヴァイオリンを30年位やっていて外国人と結婚し、オランダで時には子供に教えることもあるようです。息子は専門はないけど作曲が好きだから家に来るとピアノを弾いてる。いつだ

ったか息子の作曲した曲で関東に出たことがある。

♪やめられない、こんな思い出

ちっとも上手にならないのに変だね。正式に習うようになってから、学校行事のキャンプで歌う曲は弾けるように練習した。昭和 55 年頃教え子に「青い空は」をみんなで歌おうと教えたら、そのときの子供がいつの間にか大人になって、新婦人で頑張っている。『先生、あの時教えてくれた歌を歌っています』なんて、懐かしかったですね。そういう思い出もあります。

教え子でも中にはすごいのがいるんですよ。ピアニストとかヴァイオリンで頑張っているとか。その子達から何か演奏会があると連絡が来る。そういうのは行くわけですよ。また、ずっと中学教師をしていたから、ある学校では授業をサボってプールの下でシンナーを吸ってへろへろになっている生徒を追っかけまわすこともやったけど、キャンプでアコーディオンを弾いたら、先生上手いねなんて言ってくれる。みんないい思い出です。

♪アコーディオンをやめられないわけ

やめちゃうと後が続かないという責任意識はあるけれど、もう一つは面白い。楽しいってことですよ、弾くことが。他にもいたずらした楽器はたくさんある。中学校にはいろいろな楽器がある。ブラスバンドのセミ顧問をやったからいたずらできた。

最初にやったのはフルート。ところがね、笛っていうのは音を出すまでに何年もかかる。それで参った、きれいな音が出ない。

次はトランペット、これは割と面白かった。でも、肺活量とかいろいろな問題でね、管楽器は苦しいや、トランペットもあきらめた。クラリネットも半年程いたずらしてみた。結局最後はアコーディオンなら何とか。但し、今一番の悩みは重いこと。くたびれるんですよ。今日も実は、2 時間くらい練習した。今 2 台あるけど、重いほうがいい音がするんですけどそっちでやっちゃう。それから調律が高い。この間やってもらったら 5 万 5 千円だもの、もう 5 年近くしてないからしょうがないと思っているけど。

♪ちっともうまくならないという悩み

これは方向転換したの。易しいやつをきれいに弾くことに。難しいのは、もう俺はだめと思い、切っ

ちゃったの。易しいやつを何回も弾いてきれいに出来るようにする。聴いている人はその方がかえっていいんだよね、それが今の私の目標です。

独奏曲も今までどれだけやったか分からない、だけどちゃんとできるものが一つもないってことが分かったんだ。こりゃあいけないと思って、易しくていいからちゃんと弾くことに考えを変えた。

歳をとってくるとそう上手はいかないよ、私が始めて先生に付いたときは 42 歳だった。そのとき先生が言った言葉を覚えている。『まあ、そんなに上手くはならないけどね』と言ったものね。私自身そう思うもの。

♪60 過ぎたらいかに上手に楽しめるかだね

60 過ぎたら“上手くなるか”じゃなくて、いかに上手に楽しめるか。で、楽しんでいるからずーと続くんですよ。それを苦しみめっちゃたらやめちゃうよ。(笑)やっぱり音楽だから楽なもの、プロは別だろけど。苦しむなんていうのは俺は賛成しないよ。レコードや CD はあんまり聴かないけど、演奏会には行っている。N 響の会員になってこれは毎月行っている。

♪曲は歌わなきゃだめ

曲は歌わなきゃだめだ。曲には、たいがい何らかの歌が付いているのだから歌わなきゃだめだと思う。それから、合奏のときの注意で、他の人の音が完全に聴こえなきゃだめだって何か書いてあった。そうだと思うんだけど、それが俺には出来ないんだよ、自分の音が必死で。きれいに合うといよねえ。

♪今の楽しみ

アコーディオンを続けること。それと、パソコンで娘や息子と話すこと。朝起きるとまずメールを見る。次にインターネットで天気予報を、そして面白い記事を見ることです。

今日はありがとうございました。



※声が聴きづらくなってきたので、持参された補聴器を耳につけての取材でしたが、気さくに何でも答えてくださいました。若さの秘訣は、言葉の中から覗えるように情熱でしょうか。話し言葉が印象的でしたのでそのままを記事にしてみました。

文:乙津 同行者:築山、橋本、

